（第２号様式）

令和６年４月 26 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立横浜立野高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 19 日実施）	総合評価（３月 27 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 ②学校行事や生徒会活動を工夫・充実させ、生徒の主体性、協調性の育成を図る。	①ＩＣＴ機器の利活用と教科横断的な授業により、学習内容の理解と学習習慣の定着を図る。 ②前年度からの感染症対策を見直しながら、生徒主体で学校行事が運営できるよう体制を整備する。	①授業力向上推進重点校のテーマとして、１人１台端末を効果的に使用した授業を組織的・計画的に推し進め、主体的・対話的な学びにより、学力向上を目指す。 ②感染状況に応じて行事の内容や運営方法を見直し、生徒会執行部や各行事の実行委員を中心に生徒が自ら考え運営できるように支援する。	①１人１台端末を使用する授業を実施した教員数が増加したか。また、生徒が主体的に取り組む場面が増えたか。 ②生徒が自ら考え行動し、行事の企画内容や運営を主体的に行い、達成感と充実感を得ることができたか。	①２回の授業研究協議会を実施し、１人１台端末を使用した授業研究を実施した。外部講師による授業力向上研修会では、授業と評価の在り方について理解を深めた。 ②クラスの日や文化祭を４年ぶりにコロナ前の内容で行事を実施することができた。生徒会執行部や実行委員を中心に支援することができた。	①１人１台端末を使用して「何ができるようになるか」を明確にした授業研究を推進していきたい。 ②コロナ前の内容に行事が戻せたとはいえ、まだ試行錯誤の段階に留まっているように見えるので、来年度は積極的に企画内容を考えられるよう、支援していきたい。	○授業力向上に向けて、教科毎ではなく、学校全体でどのような授業を目指していくのかを決めたほうがいいのではないか。そして、それを教員だけでなく生徒や保護者、中学生にも提示できるようになると、それが学校の特色になるのではないか。	①授業研究協議会及び授業力向上研修会を通じて、積極的にパソコンを活用した授業の実践例を共有した。また、指導と評価の一体化について研究を深めることができた。今後は特に適切な評価について、どのように具体化していくかが課題である。 ②文化祭では、来場者の制限をなくし、調理も可能にするなど４年ぶりにコロナ前の内容で実施することができた。後夜祭でも生徒が考えた内容を実施できるようにサポートすることができた。球技大会やクラスの日では、生徒主体となり企画から運営まで昨年度よりもスムーズに行うことができた。	①ＩＣＴを活用する方法や目的を明確にした授業研究をさらに推進していくとともに、引き続き指導と評価の一体化について各教科で具体的な評価方法を協議していく。 ②文化祭の企画内容にかなり偏りが出てしまったり、調理団体は調理する量の予想ができなかったりと完全にコロナ前の状態に戻すことはできなかったので、クラスの日や合唱コンクールを含め、今年度の反省を活かし、幅広い視野を持って、さらに行事を活性化させたい
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①日常的な生徒指導を通して社会規範を身につけるとともに、部活動等において自己実現に向けて努力する姿勢を育てる。 ②個に応じた相談・支援体制の充実を図る。	①生徒自身が、所属する組織の一員としての自覚や行動が主体的にできるように、助言や指導の充実を図る。 ②困難を抱える生徒を早期に把握し、適切な支援につなぐためにＳＣやＳＳＷ、教育相談コーディネーターの連携を図る。	①職員間での情報共有を図り、指導にズレが生じないようにグループでの支援を行う。 ②ＳＣやＳＳＷ、教育相談コーディネーターの連携を密にして、校内コーディネーター会議を定期的に行い、情報共有と人材育成を図る。	①全職員が統一した指導ができたか。 ②定期的に校内コーディネーター会議を開催し、校内関係者間で情報共有を図ることができたか。 ②ＳＣやＳＳＷなどと連携し、積極的・組織的な相談・支援に取り組むことができたか。	①職員会議などで事案発生に伴いう初動の重要性や端緒の入手など対応仕方など共通認識を持つことができた。 ②ＳＣやＳＳＷと連携し、医療機関へ繋げる件数が増えた。 金沢支援学校による拠点巡回相談での助言を生徒理解支援に活用できた。	①時代の変容に応じて、懸念される事案も変化してきているため、若手職員を中心に、生活指導や生徒支援について定期的に研修していく必要がある。 ②教育相談体制を支援するため、業務の円滑な引継ぎを行う必要がある。	○今までの生徒や保護者と、近年の生徒や保護者とでは性質が変化してきている。今まででは目立たなかった苦情や抗議が多くなり、長期化するケースが増えている。 ○生徒の声を聞く体制と聞く方法を工夫した。１対１で子どもと話すのはもちろん、子どもの声をいろいろな手段で聞き出すようにした。ＳＣやＳＳＷと協力し、何かあればすぐにケース会議を行うようにする。	①問題行動が発生した際、学年全体で役割分担し、きめ細かく対応することができた。初期対応の重要性を改めて認識する必要がある。また、今年度は様々な機関と連携することが多く、担当窓口となる教員の負担に配慮する必要がある。 ②教育相談ではＳＳＷと連携し、外部機関と歩調を合わせることができた。一方では、学校と外部機関の考え方が異なる場合もあり得るため、生徒にとって最適な支援策について協働しながら検討する必要がある。	①５年以内の若手教員については定期的に会議を実施し、生活案件について、指導していきたい。 ②ＳＣによるフィードバックを元に学年、教科担当など関係職員との情報共有を図り、組織として行動できるよう努めていく。 ②ＳＣ・ＳＳＷによる職員研修を実施し、仕事や役割の違いを理解し、きめ細かな生徒支援に繋げたい。 ②不登校の生徒を注意深く観察し、原因究明の助けになりたい。また保護者との連携を深め、医療機関に繋げることの有効性を伝えたい。
	進路指導・支援	○生徒一人ひとりの進路希望を実現できるよう進路指導体制・教育相談体制・学習支援体制の充実を図る。	○生徒が自ら考え自己実現していく力を身に付ける進路支援体制の充実を図る。	○進路ガイダンスを各学年の適切な時期に実施し、学年と協力しながら、進路希望実現に向けて、ミスのない支援を行う。 ○進路相談室を整備し、進路関連情報の告知を積極的に行う。	○学年に応じて適切な時期に効果的なガイダンスを実施できたか。 ○進路相談室の利用状況。生徒に的確な進路情報を伝えることができたか。	○分野別模擬講義を実施し、早期に目標設定を行えるよう工夫した。１，２年生の保護者には分野別（大学・専門学校）に進路説明会を行い、仕事の学び場や保育体験への参加を促した。	○３年間を見据えた進路指導や支援計画を改めて検討する。 ○進路関係資料の収集と整備をすすめ、生徒の進路に向けた意識をより高めることができるように常に検討する。	○学校推薦による受験は他の学校でも増えてきている。大学や専門学校でも定員割れをしてしまっている学校もあり、どこの学校も受験をさせてしっかりとした基礎学力を身に付けながら進学させたいと考えているが現実は難しい。	○進学に向けて、大学を招いた模擬講義を実施した。また保護者には進路説明会を実施した。 ○進路実現に向けて、１・２年生に卒業生による卒業生講話を実施した。 ○進路相談室の環境を整備し、生徒の自習利用が増えた。大学入試問題集（赤本）の貸し出し希望も多く、より利用しやすい環境整備進めていく。	○ガイダンスや説明会におけるＩＣＴ機器の有効活用を検討する。 ○進路相談室のレイアウトを再検討して、利用しやすい環境を整備する。また進路情報の収集に努め、適切に発信しながら生徒の学力育成のための支援を行う。 ○入学から卒業までの３年間を見通し、生徒や保護者に対する進路指導、支援計画を刷新

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 19 日実施）	総合評価（３月 27 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				○総合的な探究の時間を有効に活用したキャリア教育を実践する。	○生徒が設定した進路目標に対し、実現に向けて取り組む力を育むことができたか。	○進路相談室は３年生を中心に、２年生の利用も目立った。 ○３年生に進路先の研究、志願理由書の書き方講座、模擬面接などを実施した。	○計画的な進路学習が行えるよう、キャリア教育の内容を引き続き精査していく。		○ＬＨＲにおいて、各学年の年間指導計画に沿った適切な進路指導を行う。 ○入学時から進路実現に向けた計画的な学習が行えるよう、３年間の行動計画を学年間で共有し、効果の検証を行う。	していくとともに、キャリアパスポートの有効活用についても継続して検討する。
4	地域等との協働	○地域貢献活動や地域との協働活動等を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	○地域の方と活動可能な地域貢献活動を検討し、魅力ある地域づくりに貢献する。	○間門小学校の要望を踏まえ、連携した活動の充実を図る。 ○本校の教育活動を地域の方に紹介し、地域での貢献活動を検討する。	○生徒が地域とともに学校づくりをしている実感を得ることができたか。 ○生徒が、自分たちも地域の一員であるという意識を高めることができたか。	○各学年で地域清掃を行うことができた。また、ソングリーダー部が間門小学校にチアリーディングを教えに行くなど、近隣学校との連携した活動を実施することができた。	○ソングリーダー部や生徒会執行部だけでなく、他の部活動も積極的に他校との連携を図っていきたい。また生徒会執行部で新たな地域貢献活動について考えさせたい。	○部活動の活躍は素晴らしい。中学校でも、ＳＮＳから得た情報や部活動の成果をきっかけに横浜立野高校を受検したいと言っている生徒が多かった	○毎年行っている地域清掃や、挨拶運動、見守り活動など、学校全体で地域と関わる機会を持つことができた。またソングリーダー部は、１１月から間門小学校に月２回、チアリーディングの指導に行き、３月に発表を行うなど、近隣学校との連携も実施することができた。	○今年度は新しく近隣学校と交流することができたので、さらに他の部活動や生徒会執行部で近隣学校との交流を深めていきたい。また生徒会執行部で地域清掃以外にも地域に貢献できる活動がないかと考えさせて行きたい。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心・快適な学習環境の整備に向けた取組みを一層推進するとともに、不祥事防止を通じて保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。 ②学校の教育活動に関する情報発信を積極的に行い、学校への理解が深まるよう努める。 ③生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①校内美化および衛生管理を徹底する。 ①不測の事態に備え、防災体制の充実を図る。 ①ＰＴＡと協力し、ＰＴＡ活動の充実を図る。 ②戦略的な広報活動を推進し、学校ホームページや学校説明会の充実を図る。 ③人材育成を最重要課題として、仕事の分散化による負担軽減、量的緩和を図る。	①毎日の清掃活動や、状況に応じた消毒作業をとおして、校内美化と衛生管理を徹底する。 ①防災マニュアルを更新するとともに、防災訓練やＤＩＧ研修会の内容を充実させる。 ①ＰＴＡ各委員会担当者を中心に、ＰＴＡと円滑な連携を図る。 ②生徒主体の説明会を企画し、本校の魅力を積極的に発信する。 ③「総合的な探究の時間」を軸に、職員が自ら課題の解決に取り組み、学校の意思決定に際して発言できる機会をつくり、学校全体の活性化を図る。	①校内美化および衛生管理の徹底に取り組むことができたか。 ①充実した防災に関する取組を実施することができたか。 ①ＰＴＡと密接に連携し、円滑に情報共有と活動が行えたか。 ②効果的にホームページやインスタグラムを運用するとともに、説明会等の参加者に対して、充分に本校の魅力を伝えることができたか。 ③自ら仕事の量的負担をコントロールしつつ、組織として、やりがいを持って業務にあたることができるように指導・支援することができたか。	①毎日の清掃活動をとおして、校内美化の徹底に取り組んだ。 ①防災教室では避難グループごとに集合した。避難訓練は４年ぶりに実施できたが、ＤＩＧ研修会は実施日が設定できず実施できなかった。 ①ＰＴＡとの連携は改善を模索している。引継ぎの徹底とコロナ渦前の状況の情報共有が必要。 ②ホームページの更新回数は増えているが、行事と更新までのタイムラグがある。説明会等については形態が定まってきた。説明会参加人数は増加した。 ③「総合的な探究の時間」を軸に、職員が学校の意思決定に際して発言できる機会をつくり、学校全体の活性化につなげた。	①清掃方法の指導や用具の整備など、日々の清掃活動の効果が上がるよう工夫を続ける。 ①一人一台端末等を使って生徒が主体的に参加できる防災学習の実施方法を検討する。 ②ホームページをタイムリーに更新するために、次年度の更新手続きのルール作りを行う。 ②オープンキャンパスや部活動体験、学校説明会等は、現在のものを踏襲する形で次年度も計画する。 ③「総合的な探究の時間」の取組について、常にブラッシュアップを図る。	○入学者選抜において倍率が１．４６倍に増えたのはすごいことだと感じた。倍率が増えたことに関して先生方はどのように評価するのかきちんと議論をするべきである。 ○倍率が増えた要因としては、今年度の部活動の成果や生徒たちが立野高校の情報をＳＮＳで発信していることが考えられる。 ○役所や会社は定時を過ぎれば電話対応しないが、学校だけが定時を回っても電話対応をしている。また会社ではお客様相談係のような聞く専門の人を配置している。これを学校でも配置すべきである。働き方改革で変えていきたいこともあれば、働き方改革でも変えられないことがある。大変もどかしい。どこでも同じ状況で教員受験者が減少し、現場が忙しくなっており、悪循環に陥っている。	①毎日の清掃活動は丁寧に実施されている。必要に応じて消毒作業も実施し、校内美化や衛生管理に努めることができた。 ①今年度は防災教室に加えて避難訓練を実施することができたが、ＤＩＧ研修会は実施できなかった。 ①昨今の現状にあわせて、ＰＴＡ総会を書面開催とするなどの変更を行った。 ②ホームページの更新について、回数は増えているが情報量の少ないところがある。 ②オープンキャンパス、部活動体験、学校説明会等を軸とした広報活動を定着させることができた。 ③「総合的な探究の時間」を軸に、職員が学校の意思決定に際して発言できる機会をつくり、学校全体の活性化につなげることができた。特に総合的な探究の時間プロジェクトチームは、職員功労賞を受賞することができた。	①ＤＩＧ研修会はＰＴＡ本部役員と生徒会役員との合同実施を模索したが実施できなかったので、次年度は上半期に実施したい。 ①規約の改定等、現状にそぐわない箇所の見直しを行う。 ②ホームページをさらに充実させるため、迅速に更新し、よりタイムリーな情報発信に努める。 ②全公立展や公私合同説明会をとおして、学校で開催する説明会に足を運んでもらえるように、本校の魅力がより伝わる説明会等を企画・立案し、実施する。 ③「総合的な探究の時間」の取組は、今年度で３年間分のプログラムが整う。現状に満足することなく、１・２年生については、さらに全体的なレベルの底上げを図りながら、取組の選択肢を増やしていきたい。